「REAL LIFE」

成田眞由美

幕は閉まっている。
舞台上には、無造作に置かれた複数のイス。ロッカーが一つ。
扉となる四角い枠（映像投射用に白い幕が張ってある）が
ランダムに置かれている。
台詞が書かれた紙が散らばっている。（枠にも貼られている）

客席扉から道化１が登場する。幕前で前説。

道化１　本日はご来場頂きまして誠にありがとうございます。
公演に先立ちましていくつか注意事項をお伝えさせて頂きます。
皆様は、「リアルライフ」というお芝居を観にいらしたと思いますが、
この芝居は普段目にしている現実生活に溶け込みすぎて見えていない
「扉と掃除夫」のお話です。
そうですね、例えばここにある扉。これもさっきまでは劇場の扉として
機能していましたが、今は別次元に繋がっているのです。
この扉というやつは、あらゆる時代・世界に繋がる事ができるのですが
自由気ままなもんで、同じ場所にいないのが、非常に厄介！
私らの持ってるこの手帳にはこの扉の場所と、どこに繋がるのか
予定表が表示されるとはいえ、情報がコロコロ変わるもんで
ようやくたどり着いたと思ったら、もう違う場所に移動している。
もう私らが管理しているのか、扉に管理されているのか、非常に厄介！
そして扉と供に移動している掃除夫たちも、これまた非常に厄介！
空間を移動しながら人々の記憶を掃除しているのが、もう非常に厄介！

客席扉から掃除夫たちが出てくる。

道化１　噂をすれば掃除夫たちがやってきましたな。閑話休題。

くれぐれも扉を刺激しないよう携帯電話はお切りください。
飲食も禁止！ましてや喫煙もNG！笑いたければ笑っていいが、
くれぐれも、私語は慎んで頂きたい。
誰かが約束を破って、皆さんが元の世界に戻れなくなって、非常に厄介！なことになったとしても、私どもは責任を持ちませんのでね。
それでは、掃除夫たちと供に、空間を移動することにしましょうか。

掃除夫たちが幕をあけるアクション。曲IN。

道化1　開けゴマ！！！

舞台上に置かれた枠に男や女の記憶の断片映像が映し出される。
掃除夫たちは枠を移動させる。
道化1は、その様子を心配そうに見つめているが、
思い出したように手帳を開き、そしてロッカーの中へ消える。
（ロッカーは通り抜けできるようになっている）

【chapter1】旅は始まりを繰り返す

曲が消え、時を刻む音が聞こえてくる。
枠が動いたことで舞台上に女1が寝ているのが見える。
研究員が入ってくる。
掃除夫たちはロッカーから掃除道具を出して、
散らばっている紙を集め始める。

研究員　今日も特に異常なし。

身体の状況を確認し、カルテのようなものに記入していく。

研究員　ま、これはこれで、異常か。

女1の母が入ってくる。
研究員と母が話しているがあまり聞こえない。
同空間にいる掃除夫たちの声がメインとなる。
掃除夫1は集めていた紙を拾い上げる。

s

掃除夫1　新米！
新米掃除夫　はい！
掃除夫1　ここに書いてあることを読めるか？
新米掃除夫　はい！えーっと、「娘はいつになったら起きるのでしょうか」

掃除夫2が次の紙を差し出す。
新米掃除夫は一瞬戸惑う。

新米掃除夫　「今の状態だと我々にも何とも言えません。体に異常はなく、本当にただ寝ている状態としか言えないので。」

掃除夫1　よし、文字が読めるなら大丈夫だな。
新米掃除夫　えぇ？どういうことですか？
掃除夫2　じゃあまあ、二つの紙の違いがわかるかな。

新米掃除夫は、少し考えて。

新米掃除夫　この母親の言葉と、研究員の言葉、という違いですか？
掃除夫1・2　せ～いかい！
掃除夫1　こっちが、母親で。

掃除夫２　こっちは、研究員。
掃除夫１　扉と供に移動して、人々の言葉を回収し、記憶を掃除する。
掃除夫２　簡単な仕事でしょ！
新米掃除夫　はぁ・・・
掃除夫１　じゃあ、いま回収した言葉を振り分けてみよう。

掃除夫１・２、新米掃除夫は紙を拾い上げる。
読み上げた紙は、二つの袋にそれぞれ入れていく。
母と研究員のリップと読み上げたセリフはあまり連動しない。
（拾い上げた紙は、過ぎ去った言葉や心境である）

掃除夫１　「一体娘に何が起こっているのか・・・」
掃除夫２　「お母さん、我々も尽力させていただきます」
新米掃除夫　「天国のお父さんに会わせる顔がないわ」
掃除夫１　「娘さんに話しかけたり、体を触ったり、刺激になるような事を是非やっていただきたいです」
新米掃除夫　「出来ることは何でもやらせて頂きます」
掃除夫２　「娘さんが少しでも意識を取り戻すきっかけになるためにご友人や、彼氏を呼んで刺激を与えるのも効果的だと思います」
掃除夫１　「声かけをしてくれる人を募りたいと思います」
掃除夫２　「お母さん、希望を持ちましょう！」
新米掃除夫　「したっけ、なまらわやっしょ！」

三人紙から目を離し、顔を見合わせる。

新米掃除夫　・・・？
掃除夫１　なんか変なの混ざってんな。これはとりあえず別にしといて。

掃除夫2、少し形の変わった袋を取り出して紙を入れる。
研究員は、母に会釈し、いなくなる。母は娘の手を握る。

掃除夫1　たまに、こういうこともある。そういうときは、この袋に入れる。
わかったか？

新米掃除夫　はい！

掃除夫1　じゃあ、そろそろ次行くかぁ。扉が移動したがってるし。

掃除夫1が枠の一つを開ける動作。
枠で母と女が隠れる。
いつの間にか、客席から現れている男1。
新米は男1のほうをふと立ち止まって見やる。
掃除夫たちはいなくなる。時を刻む音が消える。

【chapter 2】時は巻き戻される

皆（出演者）の「夢」が語られる音か映像のMIX。
男1は舞台に上がってくる。

男1　いつの頃からか夢を見なくなった。
劇団を有名にしたいという夢は追い続けているのに。
稽古とバイトに追われる日々で家に帰ると晩酌しながら寝る始末。
アラームに叩き起こされて今日もまたバイトに出かける、その繰り返し。
サラリーマンに押しつぶされながら「売れてやる」と心の中でつぶやく。
人生の選択は間違ってない。
ただ、役者として演出家として舞台に関わる内に、ふとわからなくなる。
これは、本当に私の人生なのかと。
普段、自分は自分を演じて生きている。

役者として、観客に夢を見せたいから、夢を魅せる存在でありたいから
様々な他人を演じ、様々な世界を、舞台を、演出する。
私は死ぬまで役者として舞台に立ち続けたい。舞台に生き続けたい。
私の中の有象無象が自らの終わりを告げて
新たに始まる今日となる。

男１は舞台上から、客席の床を見ている。

【chapter３】再び会する

電話が鳴る。電話をとる男１。
座付き作家の音声が聞こえる。

座付　もしもし
男１　あぁどうした？
座付　今、時間大丈夫？
男１　うん、大丈夫。
座付　・・・本当は会って話さないといけないことだってわかってるんだけど。
俺・・・劇団辞めさせてもらうわ。
男１　は！？ちょっと、どういうことだよ、お前！
座付　家業を継ぐことにした。
男１　え、お前継がないって言ってたじゃん。
それに、お前がいなくなったら、誰がホン書くんだよ！
座付　瞳が俺の子を妊娠したって言うんだ。
男１　・・・
座付　父親になる覚悟を決めたから、劇団を辞めて、働く。自分の家族のために。
男１　・・・
座付　瞳も一緒に劇団を辞めるから。

男１　・・・

座付　本当に申し訳ないと思ってる。１０周年記念公演やったばっかりなのに。

・・・俺も、こんなことになるとは思ってなかった。

男１　・・・

掃除夫１・２が現れて、枠に貼られている紙を回収している。

座付　本当に・・・すまないと思っている。

男１　・・・電話でこんな話済ますんじゃねえよ。

座付　わかってる。劇団のみんなには・・・

男１　（遮って）いや、やっぱり電話でいいわ。

お前の顔見たら、殴りたくなるから。

座付　劇団の皆には、俺が自分で事情を連絡する。

男１　解散する。

座付　え・・・？

男１　劇団は、解散する。みんなにもそう言うから。

１０周年記念公演やったばっかでちょうど区切りがいいし。

俺らの関係の終わりとともに劇団が消えた方がいい。

・・・お前の書く脚本が好きだったんだ。お前が描く世界が・・・。

だから、だから・・・

座付　申し訳ない。

男１　・・・最後に一つ、腹ん中の子供、本当にお前の子供か

ちゃんと調べた方がいいと思うよ。

座付　ちょ・・・

男１、一方的に電話を切る。携帯を見つめている。

男１　はぁ・・・ホントあいつら無責任だな。

まあ、生まれてくる子供の責任は・・・取るのか。
・・・ったく瞳は・・・。

近くの椅子に座る男1。
携帯で何かを打ち込んでいる。
いつの間にか道化1が出てきている。
不思議な動きで男1に近づく。

道化1　お忙しいところ失礼致します。ちょっとお時間よろしいでしょうか？
男1　はい？
道化1　1～2分程度で済みますので、質問よろしいでしょうか。
男1　今ちょっと立て込んでるんで。
道化1　この写真の人物を知っているかどうか教えて頂くだけでいいんですよ。

道化1、すぐさま写真を取り出して見せる。

男1　いや～ちょっと知らないですね。
道化1　おかしいな、あなたは知っていると思うんですけど？
男1　どういうことですか？
道化1　多分、忘れているだけだと思うんですよ。
男1　いや、知りませんよ。（携帯に目を移す）
道化1　もう一度この写真をよく見てください。（携帯の前に写真を差し出す）
見れば見るほど思い出さないですか？
男1　おかしなこと言わないでくださいよ。
知らない人のことは思い出せませんから。
道化1　記憶っていうのは、自分の都合の良いように書き換えられるんですよ。
潜在意識に眠っている記憶を呼び起こしてくれませんかね。

男1、場所を移動しようとするが、写真を無理矢理手渡す道化1。

道化1　この写真の男は、誰かに殺されてしまったんですよ。

男1　！？

道化1　誰に殺されたのか、それを我々は探っているのですけどね。
そもそも、この方のことを覚えている人が見つからないんですよ。
なぜ何でしょうね。不思議なこともあるもので。
だから、こうして皆さんの記憶に訴えかけてみているんですよ。

男1　・・・わかりました。とりあえず写真は預かりますけど、
思い出せるかどうかの保証は出来ませんから。

男1立ち去る。道化1も消える。
掃除夫たちが枠を移動させると、
女1が寝ているのが見える。母親も一緒。

【chapter4】狭間に落ちる

時を刻む音が聞こえる。母親が女1の手を握り話しかけている。

母　・・・お父さんが天国に旅立って、
色々手続きも終わってようやく落ち着けた日の夜、
お母さんの手を握って言ってくれたよね。
「大丈夫、私がお母さんを支える」って。
覚えてるかな・・・。本当に、本当に嬉しかったけど。
お母さんのためにがむしゃらに働いて・・・。
こんなことになっちゃって・・・。
ごめんね・・・・。ごめんね・・・。

女1の友達が入ってくる。母親に会釈。母立ち上がる。

友達　ご無沙汰しております。この度は・・・

母　智子（ともこ）さんお久しぶり。来てくれてありがとうね。
娘が迷惑をかけて、ごめんなさい。

友達　いえ、逆に申し訳ありません！

母　どうしてあなたが謝るの！

友達　会社を立ち上げて、自分たちのやりたい仕事を形にできるって
二人でこのブランドを世界に売り出していくんだって夢を見て。
忙しいけど充実していて、疲れを忘れて働いた結果だと思うんです。

母　・・・

友達　私、自分のことしか見えてなかった。彼女の体の異変に気付いていれば。
私が一番ずっと近くにいたのに。

母　椅子に座って、一緒に娘に話しかけてくれないかしら。
ここの人にも、何かしら刺激を与えた方が意識が戻るきっかけに
なるかもしれないって言われたのよ。

二人、椅子に座ると、道化2がロッカーから現れる。
母と友達はフリーズ。時を刻む音もカットアウト。
女1が起き上がり、用心深く辺りを見回しながら歩きだす。
女が見ている夢の世界に切り替わる。

女1　多分、この辺だと思うんだけどなぁ・・・。

枠に貼られている紙を見ている道化2。
女は、一瞬声をかけるか迷う。

女1　あ、あの！

道化２振り返る。

女１　すみません。このあたりに富士見幼稚園ってありませんでしたでしょうか？

道化２　え？・・・いや、この辺りにそんな名前の幼稚園はなかったと思いますよ。

女１　え・・・そんなはず・・・。ここの住所って、桜が丘１丁目ですよね？

道化２　そうですね。

女１　だったら絶対にあるはず。

道化２　とりあえず交番行きます？

女１　・・・交番？

道化２　いや、僕が知らないだけかもしれないですし。１丁目って言っても広いし。

女１　・・・交番まで連れてって頂けないでしょうか。

道化２　通り道なので、いいですよ。すぐ近くですし。

照明が変わり、そこは交番になっている。

道化２が扉をスライドさせ、母と友達は消えている。

道化２も姿を消す。

警官　あれ！？亀掛川(きけがわ)さん！？

女１　え？えっと・・・えっと？

警官　今さっき、お母さんが張り紙もってきた所だったんですよ。

すぐお母さんに連絡するので、とりあえず、そこ座ってください。

電話をかけはじめる警官。声はオフ。

女だけが照明に照らされる。

女１　一体どういうこと？張り紙？キケガワって私のこと？

枠に貼られていた、自分の張り紙を手に取る。

女1　探してます。キケガワ ユミ。写真は私だし、特徴もあってる。
失踪時の服装、今の服と同じ。どういうこととなの？これ。

照明、元に戻る。

警官　お母さん、近くにいるからすぐきてくれるそうです。

女1　あの、私、探されてたんですか？

警官　・・・えっと、そうね。一週間前に行方が分からなくなったって
捜索願がご家族から出されましてね。特に失踪するような理由も見当たらず
事件性が高いだろうということで・・・

女1　いや私、普通に会社行って、帰ってきただけですよ？
それがいきなり一週間も経っているってどういうことなのかさっぱり・・・。

警官　・・・記憶喪失になったとか。

女1　そんな・・・！普通に出勤して、帰りの電車でうとうとしてたら
寝過ごしちゃって。折り返して駅に着いたら、街の様子が全然違うし。
勘で自分の家があった辺りまで来てみたけど、家はないし・・・。
一週間も電車に乗りっぱなしなんてことあると思いますか？

警官　それはないでしょうけど。あとは、人格障害的な・・・

女1　それこそありえません！

母が駆け込んでくる。

母　ゆみ！・・・よかった！よかった！

母、女1に抱きつく。

女1　お母さん！

母　もう、あんたがいなくなってどれだけ心配したか！

悟さんにも連絡したら、すぐ来るって。ちょうど保育園にいたって。

女1　？？

母　いやもう、本当にどこいたのよ。あんたって娘は！

駐在さんも、ありがとうございます！（深々と礼をする）

警官　いや～見つかって良かったですね！ただ・・・

母　本当にもう・・・言葉もないです。

女1　お母さん・・・あのね、

子供姿の道化2が駆け込んで来る。

道化2　まま～～～～！！！

続いて、女1の夫「亀掛川悟」が入って来る。

女1、子供に動揺しつつも、勢いに飲まれてなされるがままになっている。

道化2　ままだ！ままだ！まま、まま！

夫　どこ、ほつき歩いてたんだよ！

女1　？？

夫　どれだけ皆に心配かけたと思ってるんだよ。

女1　・・・

夫　まずは言うべき言葉があるだろ。

女1　・・・どちら様ですか？

母・夫　！？！？

警官　亀掛川さん、やっぱり記憶喪失・・・

女1　（遮って）だから、私は記憶をなくしてませんって！

お母さんは、お母さんだってわかるし。
だけど、あなたと、そしてこの子も知りません！

道化２から離れる女１。

夫　俺と息子のこと、忘れたって言うのか？
女１　私には、旦那も子供もいないってば！父さんが死んで、母さんを支えるため一生懸命に仕事して。一人前のデザイナーになって、智子と独立してこれからって時なのよ。それが、なんで。なんで・・・・。私の家族は母さんだけよ！
母　ちょっと父さんが死んでって・・・（次の夫のセリフと声がかぶる）
夫　仕事は、子供が生まれるからって辞めただろ
女１　そもそも、あなたと結婚してないってば
夫　なんで俺らのことを忘れてるんだよ。
女１　だから、さっぱり言ってることがわかんないよ！
夫　その部分だけ記憶喪失なんて・・・
女１　記憶はなくしてなんか！
夫　ゆっくり思い出していこう。
女１　だから・・・
夫　大丈夫だよ。思い出せるって。
女１　・・・・。

女の父（シルエット）が入って来る。曲 IN。

女１　父さんが生きてる・・・？

掃除夫１・２が満杯になった袋を３つずつ抱えて入って来る。
枠の前に袋を置き、枠を動かして、登場人物を隠していく。

枠には三世代が一家団欒している映像。女は幸せな顔をしている。
（映像の中の子供は、道化ではなく、ちゃんと子供である）
女1の映像だったのが、やがて男1の幸せな家族映像に変わる。
男1が選ばなかった、役者を辞めて会社勤めをし、幸せな家庭を築いている、というもう一つの人生の映像。
掃除夫が椅子を並べて整える。枠に紙を貼っていく。

【chapter5】芸術は見る者の目の中に宿る

枠の一つが開かれると映像が消え、男1が出て来る。枠を閉める。
そこはカフェバー。時を刻む音が聞こえてくる。
店員に扮した道化2が出てくる。
座付（亀掛川悟だが、同一人物ではない）が椅子に座っている。

男1　お前、どうしてここに
座付　こうでもしないと会ってくれないだろ
男1　今更なんだっていうんだよ！

男1、座付の胸ぐらを掴む。道化2が仲裁するように間に入る。

座付　俺を殴りたければ殴っていい、ただ聞いて欲しい話があるんだ。
というか、聞きたい話がある。
男1　は？
道化2　あの、他のお客様のご迷惑となりますので・・・
座付　申し訳ありません。とりあえず、席に座ろう。

男1、辺りを見回す。
枠が開き、女1と友達が入ってくる。

道化２　いらっしゃいませ。何名様でいらっしゃいますか。
女１　あの予約していた・・・
道化２　それでは、こちらの席でございます。（カウンター横並びのイメージ）

女１と友達は客席を向いて座る。男１と座付も座る。

女１　とりあえず生２つ。
道化２　かしこまりました。
座付　ホットコーヒー２つ！
道化２　少々おまちください。

道化２、移動する。

道化２　ホットコーヒー２つですね、かしこまりました。

道化２消える。男１と女１の会話が入り乱れる。
掃除夫たちは、紙を枠から枠へ移動させたり
床に落ちている紙を拾い集めたりしている。

男１　話が聞きたいってなんだよ。
女友達　あ、あれ？
女１　ん？
座付　俺が辞めるって電話した時に、最後になんて言ったか覚えてるか？
女友達　前に見に行ってた劇団の人達。
男１　ああ。
女１　あ～よく芝居見に行ってたよね。
女友達　でも解散しちゃったんだよ。

座付　単刀直入に聞く、子供の父親が誰か、知ってるんだろ。

道化２が、お盆に飲み物をのせてくる。

女１は、男１と座付の方を見ている。特に座付の顔。

道化２　生ビール、お持ち致しました。

道化２、男達の机にコーヒーを運ぶ。

女１・友達　はぁ～い、乾杯！

一気に飲み干す二人。

道化２　コーヒーお持ち致しました。

男１　・・・・

座付　・・・・

女友達　すみませーん！生２つおかわりで！

道化２　かしこまりました！

座付　・・・お前が勘付いてたってことは、劇団の誰かなんだろ。

男１　・・・・

女１　仕事の後の生ほど美味しいものはないね！

友達　ほんと！最高だよね～このために生きてるって思えるわ。

座付　最後にそう言われて、なんか、捨て台詞的だったから気にはしてなかったんだけど、子供にミルクあげながらふと思い出して。

調べてみたんだ。自分の子供だと信じて。

女友達　・・・なんで解散しちゃったんだろうなぁ。

女１　色々事情はあるでしょ、きっと。劇団だし。

座付　結果、ほぼ俺の子供である可能性はなかった。

女１　ねえ、芸術は見る人の目の中に宿るって言葉知ってる？
男１　子供の父親が誰か知って、どうするつもり。
女友達　なにそれ？
座付　どうもしないよ。ただ知りたいだけ。
男１　・・・
女１　海外ドラマのセリフで知ったんだけどね。
座付　娘はすごく可愛いんだ。本当に目に入れても痛くないって思えるほどでさ。
女１　芸術を見てどう感じるのかはそれを見たその人自身の価値観に帰属すると。
座付　けど、成長するにつれ瞳に似ればいいんだけど、その父親に似たら？って。
女１　たとえどんなに素晴らしい芸術だとしても、それを素晴らしいと思える人が、
感じられる人がいなきゃ結局は意味がないってことなんだよね。
座付　可愛い娘の先にいる、血の繋がり上の父親の存在が怖くなって、
娘とちゃんと向き合えなくなってしまうんじゃないかって。
男１　・・・
女友達　それってなんかバンドの解散理由って感じしない？方向性の違い的な。
「それぞれの見えてる景色が変わってしまった」とかカッコつけて
言ったりするじゃん（笑）
女１　わかる、わかる（笑）離婚理由第一位の、価値観の違いってのもそれかもね。
同じものを見ていても、素晴らしいものだと分かり合えないとね。
座付　その時の覚悟をするためにも、今本当の父親を知っておきたい。
男１　お前は劇団じゃなく家族を選んだんだ。瞳と娘を大事にすればいいだろ。
座付　父親が劇団の誰かなら、家族も同然の存在だったから大丈夫な気がする。
男１　・・・末永くお幸せに。

道化２がビールを持ってくる。掃除夫、袋の中の紙を山にしている。
男１、千円札を置いて、店を出て行く。
道化２、店を出て行く男１を見る。

道化２　ありがとうございました～。はい、ビールお代わりお待たせ致しました。

女友達　は～い。（ビールを受け取る二人）

女１　このことわざをね、美はそれを見つめる瞳の中にあるって訳してる人がいて。
それを見て、私がもし結婚して子供産む選択をしてしまったら、
日常に追われるだけで、今デザインしているような作品を生み出す目では
なくなっちゃう気がしたんだよね。それがとっても怖いって思って。
芸術を、美しさを感じられる目じゃなくなったら、
それは私じゃなくなると思うから。

座付、道化２に対して会計をしている。

座付　どうも、ごちそうさまでした。（立ち上がる）

女１　まあ、母になったら別の感覚が生まれて新しい世界が開けるのかも
しれないけど、そうじゃない、そうじゃない気がするんだ、
私のデザイナー人生は。

友達　なるほどね。・・・じゃあまあ、独身貴族を謳歌するぞ同盟として、
改めて乾杯！

女１　乾杯！

ビールをまた一気飲みに近い形で呑む二人。空間が歪む。
舞台奥に母親と横たわる人が照らし出される。
女１、立ち上がって奥の二人へ視線を移すような感じ。
その視線上の中に座付が立っている。目が合っているような、
女１の脳に、座付の顔が刷り込まれるような感じ。

女１　父さんが生きていたら、私の人生は少しでも違ったのかな。

掃除夫がブロワーで記憶の紙を吹き飛ばす。暗転。

【chapter6】ツークツワンク

枠２つに照明が当たる。道化１・２が枠の前に現れる。

道化１　ツークツワンク♪ツークツワンク♪ツークツワンク♪

道化２　その言葉好きだねぇ。

道化１　負けることが決まっているとわかっているのに、そこから逃げられない、なんか刹那的だよねぇ。

道化２　所詮はゲームの中の話だよ。

道化１　世の中のルールから外れられないのが人間ってものですよ。非常に厄介！な存在さ。

道化２　あ、また注文きた。あの二人よく飲むなぁ。

道化１　じゃあ、そろそろお互いの役目に戻りますかね。

道化２、消える。道化１は、手帳を取り出す。
男１が入ってくる。掃除夫たちは紙を上手へ下手へ
交互に掃いていく。

道化１　あの、すみません。

男１　（無視して通り過ぎようとするが、掃除夫たちに邪魔される）

道化１　また会いましたね・・・。お渡しした写真の男のこと、思い出して頂けましたか？

男１　・・・まだ探してるんですか？

道化１　そうですよ。それが私らの誇りある仕事ですから！私どもに探せないものはありませんよ！

男１　いや、同じ男の人を探し続けてるじゃないですか。

道化１　そうです、探しています。けれど、諦めてはいないのです。

この世の中には、なかなか探しづらいものがありましてね。
なんだと思います？

男１　さぁ・・・

道化１　記憶ですよ。

男１　・・・

道化１　記憶は、忘れ去られてしまうんですよ。ただ、忘れたとしても
決して消滅しているわけではない。心の奥底に沈められているだけ。
潜在意識の中には、記憶がちゃんとあるわけですよ。
だから、私らはそれがふとした瞬間に浮き上がってるのを待っている。
必ず存在しているのですから、諦めずに探し続けているのです。

男１　前も言った通り、写真の男は知らないですよ。

道化１　そうですかね。あなたにも見えてると思うですよね。

男１　？

道化１　さっきから、ここら辺を掃除してる男たちが見えてますよね？

男１　それがどうしたんですか。

道化１　彼らは、人々の記憶を掃除しているんです。

男１　だから・・・

道化１　彼らは存在しているのに、あまりにも風景に溶け込みすぎて
気がつかれていない。見られていない存在。
そんな彼らが見ているということは・・・

男１　さっきから言ってる意味がさっぱりわからないんですけど。

道化１　じゃあ、少し私の手伝いをして頂けませんか？
代償はたっぷりお支払い致しますので。

男１　・・・

道化１　あ、そうだ。ついでにあなたが探したいものをタダで探してあげますよ。

男１　・・・探して欲しいもの・・・。

道化１　何か一つぐらいはあるでしょう?探しているもの。

男１　あるっちゃありますけど。

道化１　タダでいいって言ってるんですよ。お得じゃないですか？

男１　夢・・・

道化１　夢！非常に厄介でスタンダードな探しものですね！問題ないでしょう！
さあ、時間の余りはありませんよ。（手帳を開いて何かを書き込む）
えーっと一番近くなのは・・・（男の手を引っ張る）

枠の中をうろちょろ駆け回る二人。
ロッカーの前に立ち、ドアを開けると掃除用具が倒れてくる。

道化１　おぉ！扉の野郎、人をおちょくりおってからに！こっちか！

隣の枠を開けて、男に中を見せる。扉の中には、１０年前に
劇団結成をして勢いがあった頃の自分たちの姿が見える。（映像？）

男１　え？

道化１　先ほど見た記憶の掃除夫たちはこの扉と共に移動してましてな。
扉はあらゆる場所・時間に行くことができるが、決まった場所には
現れない。非常に厄介！な存在。ただ、我々が探しているものを探すには
非常に便利なツールだ。

男１　夢を探して欲しいって言ったから、過去の僕を見せたんですか。

道化１　あれ、違いましたか？

男１　劇団はもう、僕の夢ではないです。

道化１　なるほど。じゃあ、まずは写真の男の情報を探しましょうかね。
ほら、写真を出して。

男１　写真は持って・・・（ポケットから写真出す）

道化１　さあ、準備は万端。行きますよ。

【chapter７】声にならない想い

（考案中）

【chapter８】男は未来を見て夢を見る。女は今を見て夢を見る。

（考案中）

道化１は、掃除夫の帽子を差し出す。
男１は、帽子をかぶる。

【chapter９】リフレイン

曲がかかる中、chapter１の掃除夫たちのやりとりが
振り付けされたような動きで繰り返される。
扉を閉めるのと合わせて緞帳幕が閉まる。

【chapte１０】扉は開かれ、また別次元へ

幕前に道化達が出てくる。

道化１　さて、皆様いかがでしたでしょうか。
緞帳が閉まったということは、ここで物語は終わりとなりました。
この幕が開けば、着替えた役者達がラインナップしております。
芝居が終わってしまえば、彼らは彼ら自身に戻ります。
役を演じた彼らに大きな拍手を是非ともお願い申し上げます。
しかし皆様に忘れないでいて欲しいのですが、

この幕を閉めたのは、掃除夫です。扉が開かれるとそこは別次元。
皆様、お帰りの際は、現実の生活に気をつけてお帰りください。
道化２　さて、舞台監督から合図がきました。準備は整ったようですので
幕を開ける事にしましょう。
開けゴマ！！！！

【chapterｒ１】カーテンコール

幕が開くと、着替えた役者たちがラインナップしている。
前に並んで出てきて、深く礼。
全員、客席通路を歩いてハケ。